

ニーズ調査の結果等について

～ 目 次 ～

1. 問題認識	1
2. 路線バスを取り巻く環境	4
3. ニーズ調査の結果	11
4. 地域公共交通に係る課題	25

1 路線バス利用者数の減少と赤字補てん額の増加

- 利用者数は各系統とも減少傾向にあり、平成21年から平成25年の5年間で、八代水俣線・佐敷水俣線（現在の田浦水俣線）は14%減少、平国線は26%減少している。
- 赤字補てん額は年々増加傾向にあり、津奈木町運行分は平成25年度実績で約2千万円を超え、平成21年度実績の1.5倍にまで増加。

図 路線バス利用者数の推移

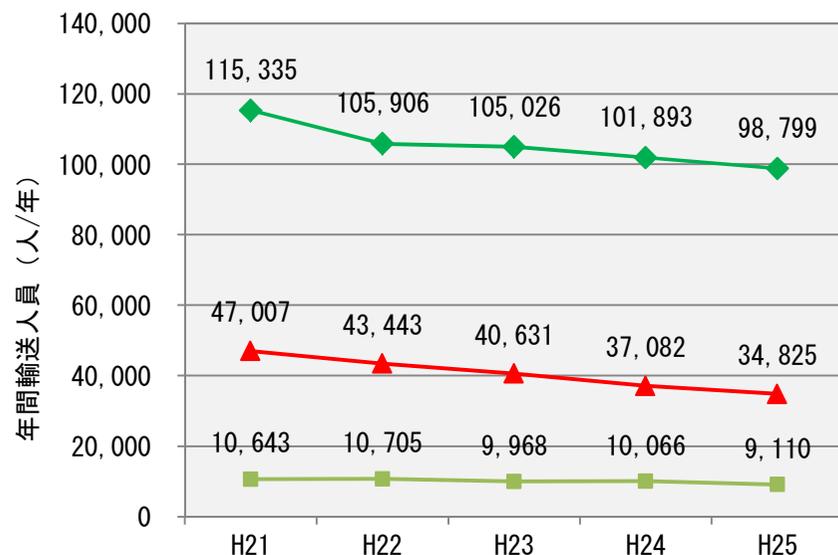
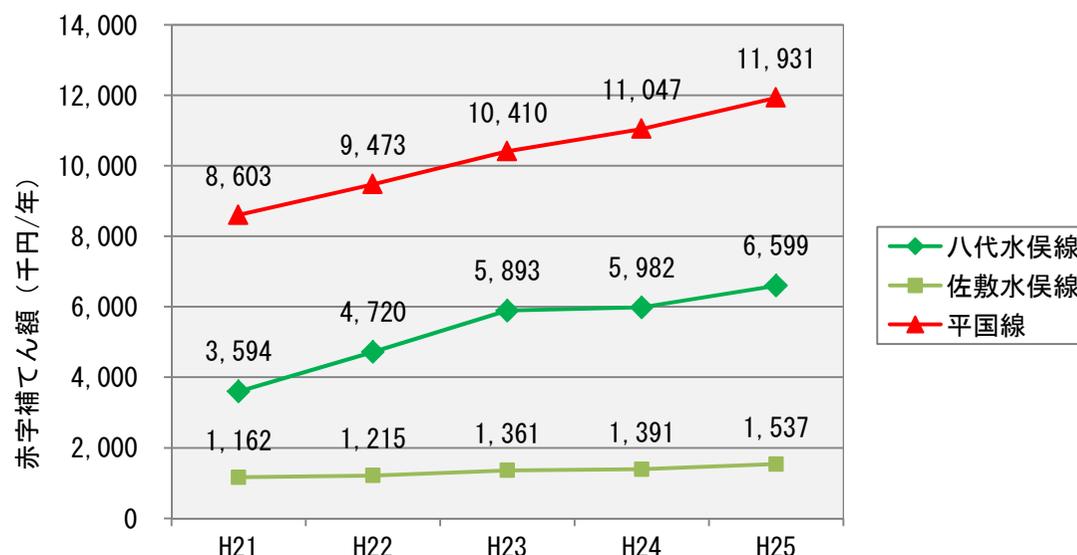


図 赤字補てん額の推移<<津奈木町分のみ>>



※産交バス補助金申請資料より作成（各年10月1日～翌年9月30日）、赤字補てん額は津奈木町該当分のみ（国・県からの財源補てんも含む）
 ※「八代水俣線」及び「佐敷水俣線」は、平成25年10月以降、『田浦水俣線』に再編

2 公共交通空白地域の存在

- 町内には鉄道駅やバス停から離れた居住地域が点在している。
- 公共交通空白地域（内野、古中尾、倉谷、浜崎、染竹地区）の住民150人余りから、バス再編要望の陳情書（H23.12）が提出されている。

※公共交通空白地域

- 鉄道駅から半径1km、バス停から半径300m以上離れた地域で、居住のある地域を公共交通空白地域とした。

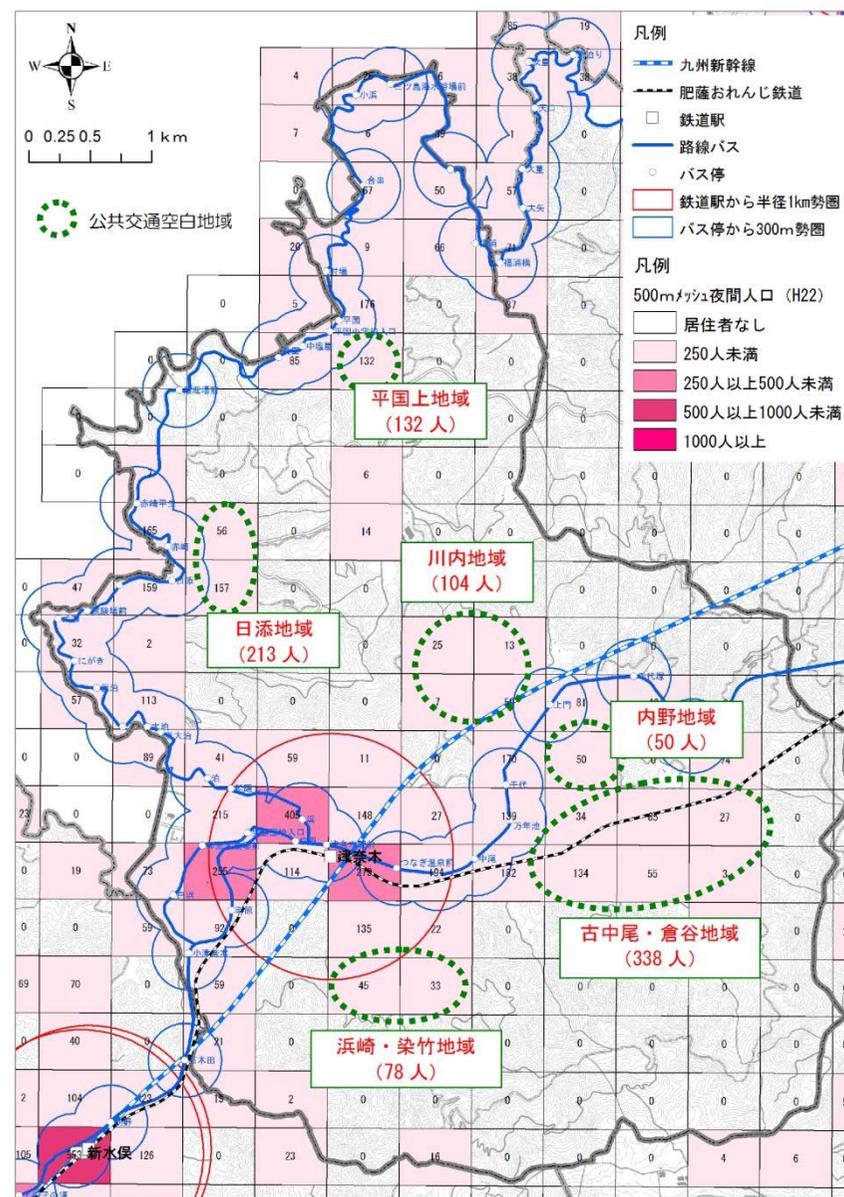


図 公共交通空白地域

(参考) 平成24年度路線再編方針

- 八代水俣線は、田浦付近で路線を分割。津奈木町側は、分割後の八代水俣線と佐敷水俣線を統合（H25.10実施済）
- 平国線（福浦～水俣）は、路線を縮小して維持
- 平国線の芦北町側（福浦橋～佐敷）は、芦北町がスクールバスでの代替を検討

※八代・水俣線等路線バス再編検討協議会

- 平成24年度に熊本県主体で2市2町（八代市・芦北町・津奈木町・水俣市）における路線バスについて、利用実態調査を実施し、再編方針を検討

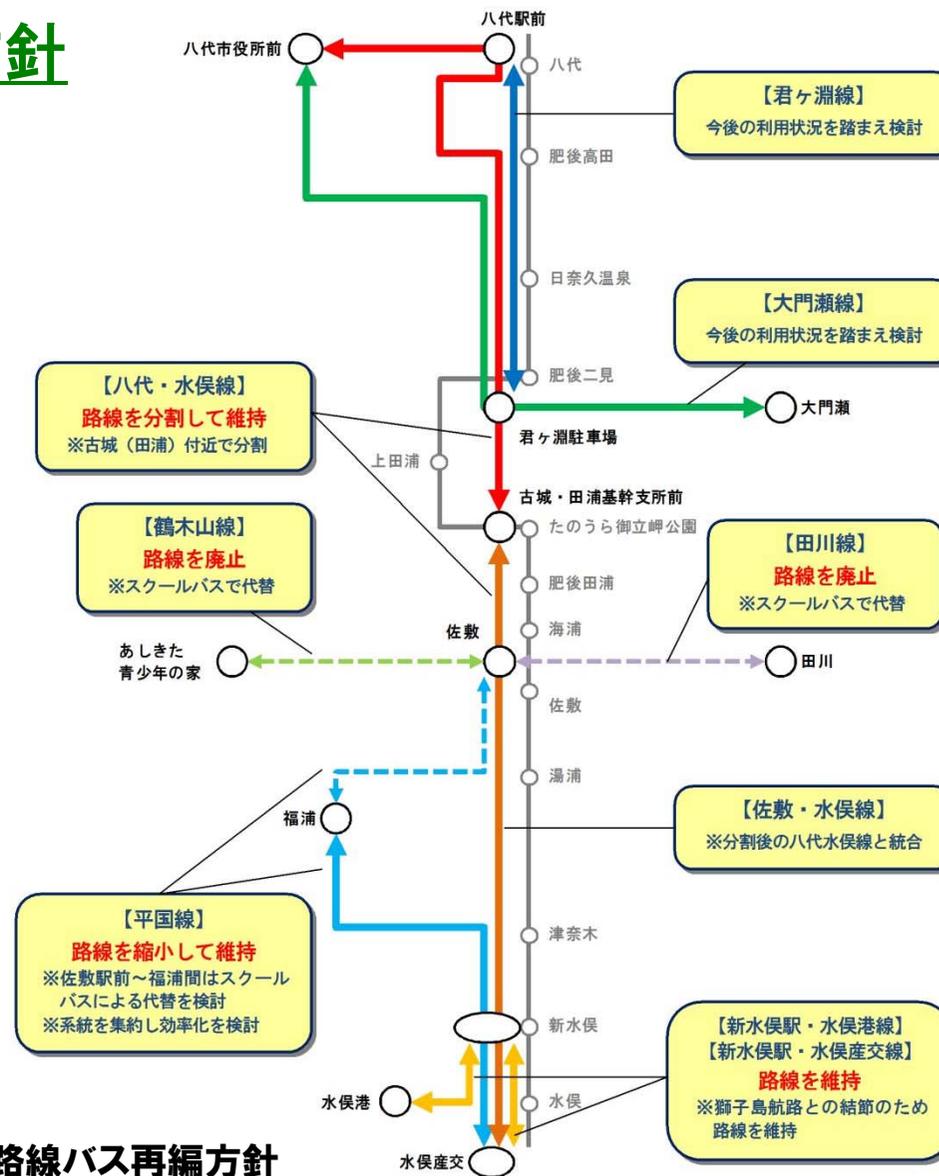


図 路線バス再編方針

2-1. 路線バスの運行・利用の状況

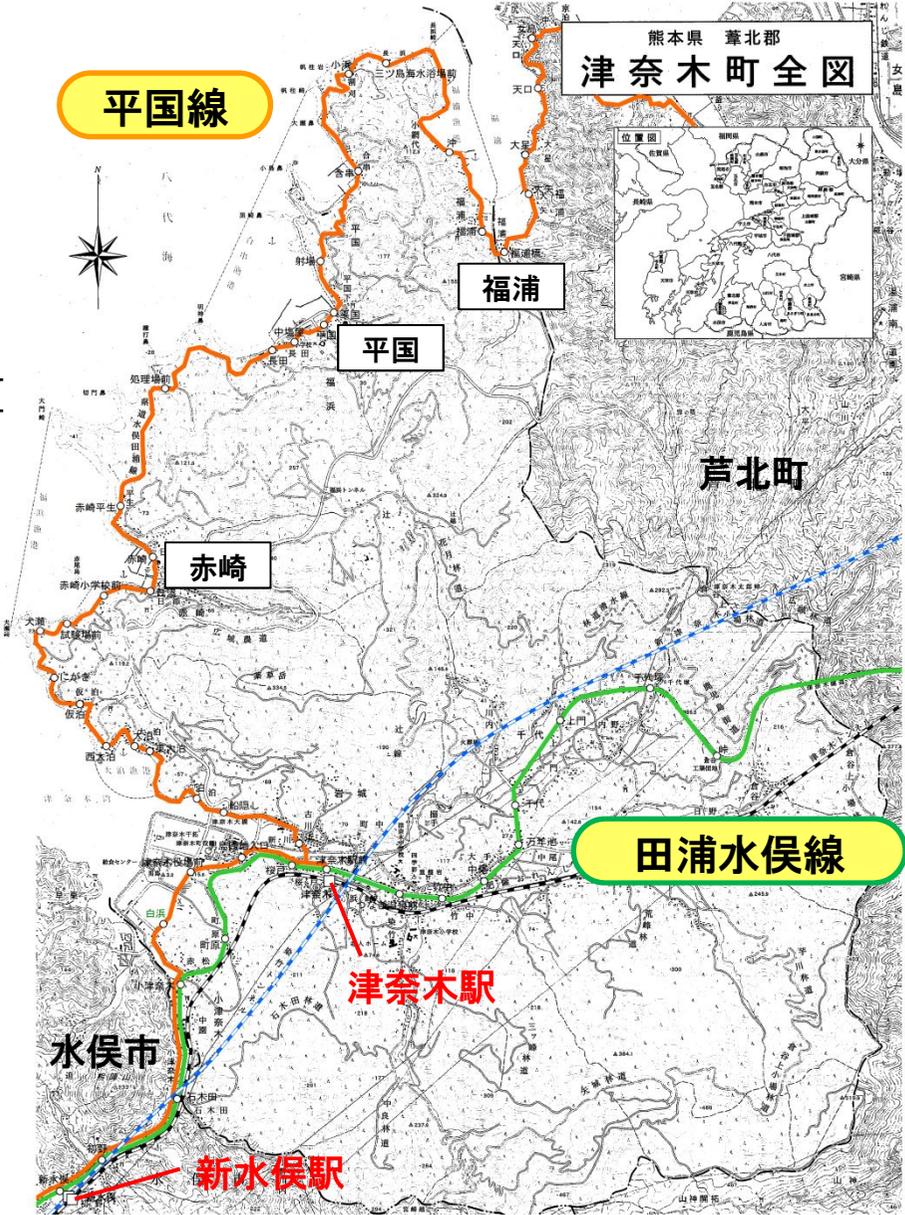
◆路線バスの運行状況

- 国道3号を運行する「田浦水俣線」、海浜地区を運行する「平国線」の2系統が運行されている。
- 平成25年10月に「八代水俣線」及び「佐敷水俣線」が『田浦水俣線』に再編

表 路線バスの運行状況

系統名	運行回数 (回/日)		
	平日	土曜	日祝
田浦水俣線 (水俣産交～道の駅たのうら)	9.5	7.5	7.5
平国線	7.5	7.5	4.5
(平国～社教センター)	0.5	0.5	0.0
(佐敷車庫前～水俣産交)	0.5	0.5	0.5
(水俣産交～佐敷車庫前)	1.5	1.5	1.5
(社教センター～水俣産交)	0.5	0.5	0.5
(福浦～水俣産交)	1.0	1.0	0.0
(平国～水俣港)	2.0	2.0	1.5
(平国～水俣産交)	1.5	1.5	0.5

※産交バス時刻表 (H26.10.1現在)



2-1. 路線バスの運行・利用の状況

◆田浦水俣線（国道3号を運行する路線）

- 町内バス停における乗降者数の合計は46名（乗車25名、降車21名）で、バス停別にみると、いずれも10人未満であるが、小津奈木・桜戸・津奈木温泉前の乗降者数が比較的多い。
- 町を通過する利用形態（水俣市⇔芦北町）も多い。
- 1便平均通過人員：3.4人/便（小津奈木～町原間）

図 バス停別乗降者数(調査日1日計)

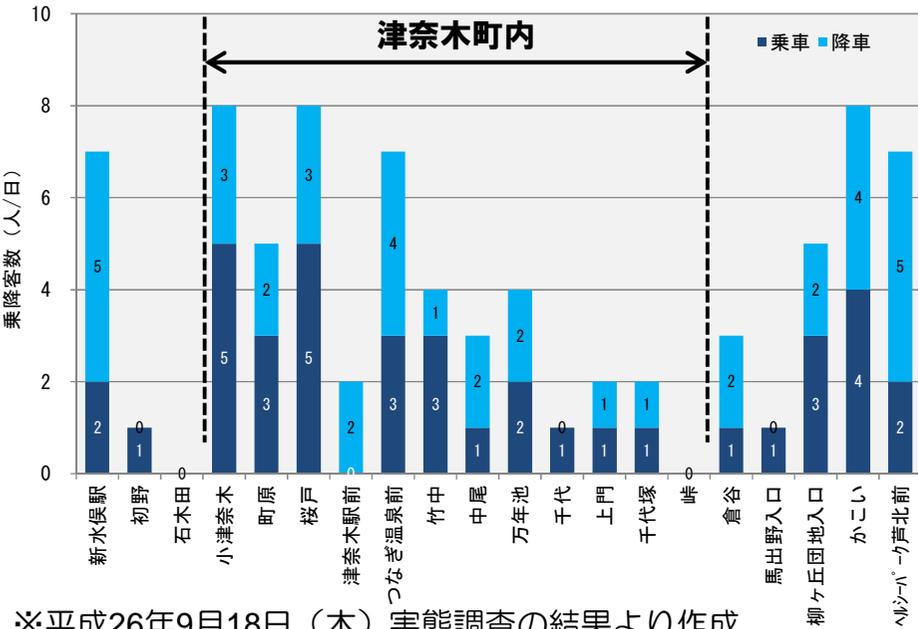
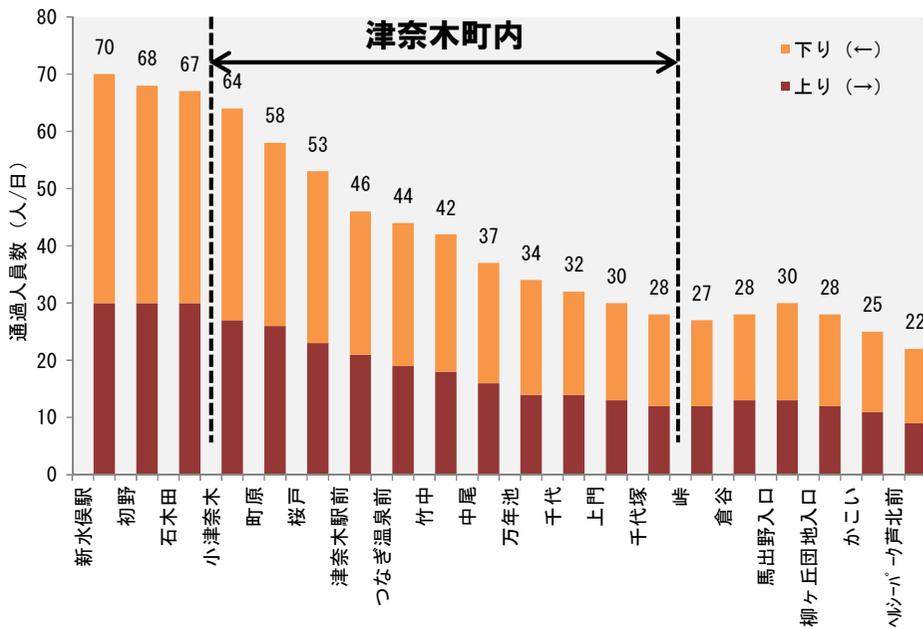


図 バス停間通過人員数(調査日1日計)



※平成26年9月18日（木）実態調査の結果より作成

2-1. 路線バスの運行・利用の状況

◆平国線（県道水俣田浦線を運行する路線）

- 町内バス停における乗降者数の合計は69名（乗車31名、降車38名）で、つなぎ温泉前、赤崎付近に利用が集中している。
- 水俣市側から徐々に利用が減少する形態であり、赤崎以北の通過人員は1日で10人未満と利用が低調な区間となっている。
- 1便平均通過人員：3.3人/便（白浜～津奈木役場前間）

図 バス停別乗降者数(調査日1日計)

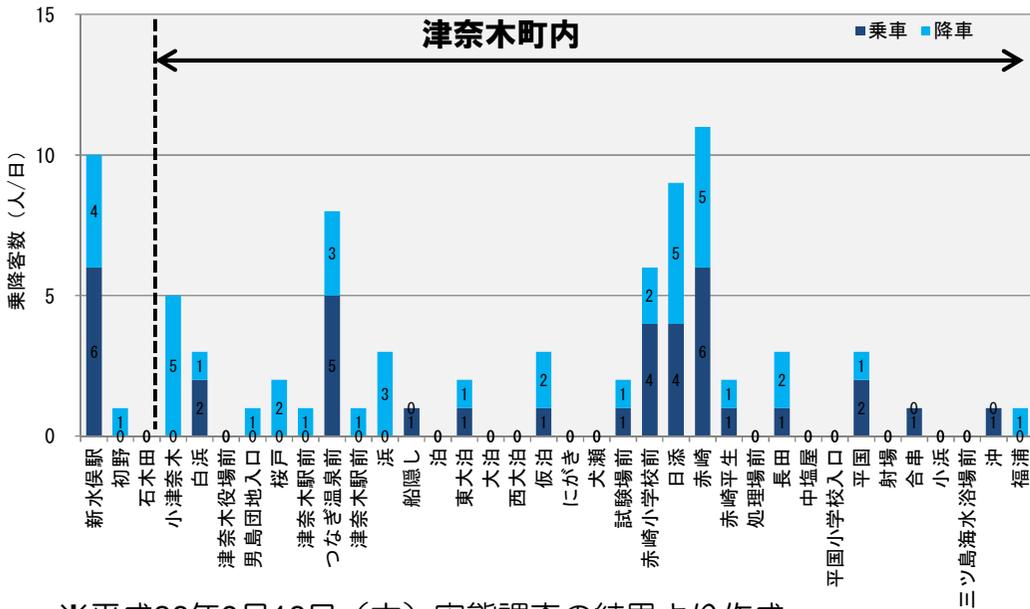
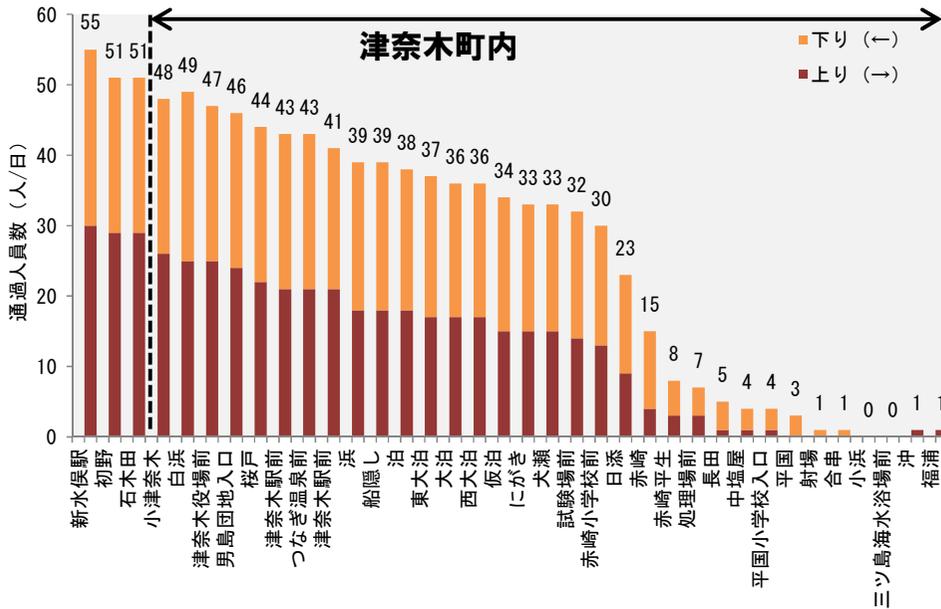


図 バス停間通過人員数(調査日1日計)



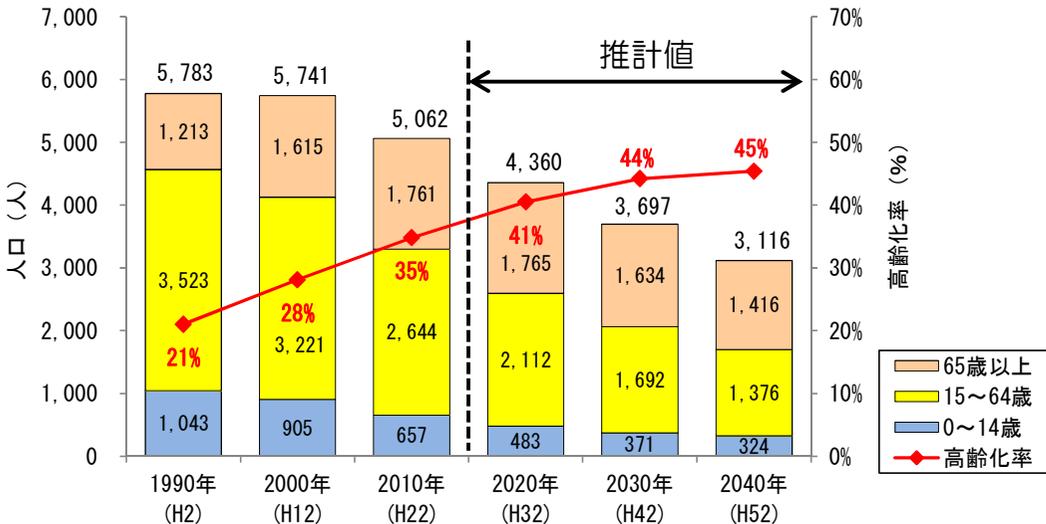
※平成26年9月18日（木）実態調査の結果より作成

2-2. 人口等の分布

◆人口

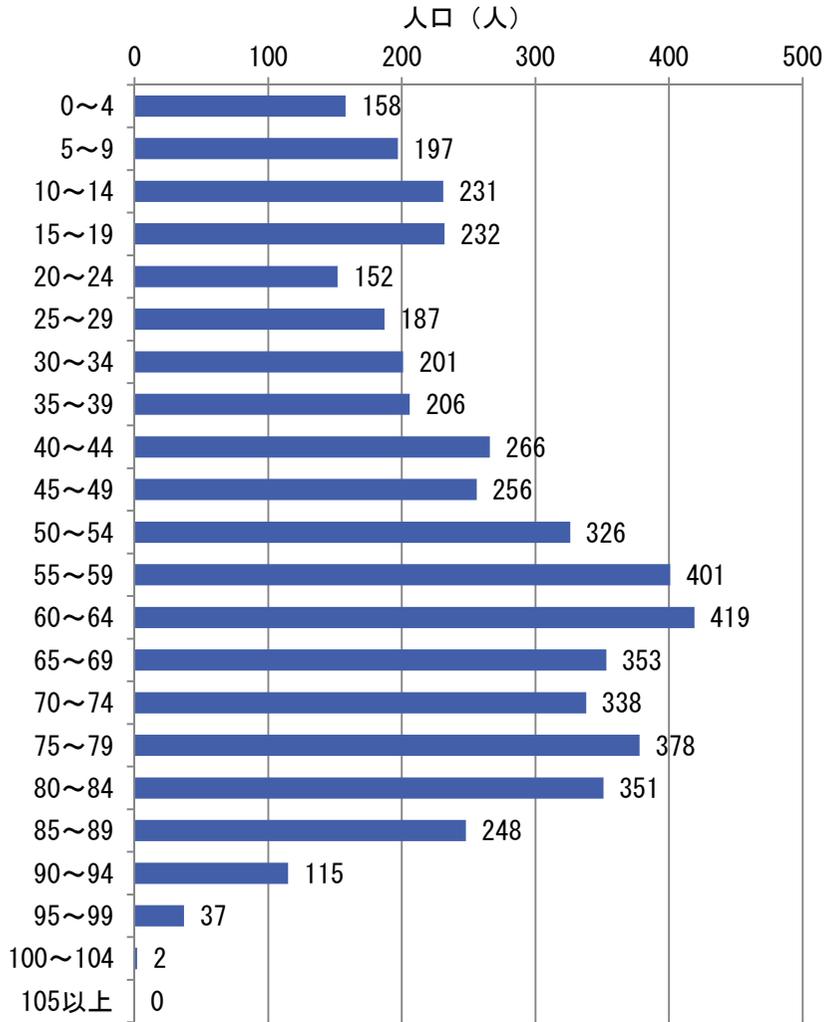
- 人口は、減少傾向にあり、将来的には人口減少・少子高齢化が更に進展するものと推計されている。
- 平成26年3月時点で、人口は約5千人、そのうち65歳以上の人口が36%、75歳以上でも22%と高齢化率が高い

図 人口の推移



※H2~H22は国勢調査、H32以降は人口問題研究所の推計値より作成

図 年齢階層別人口

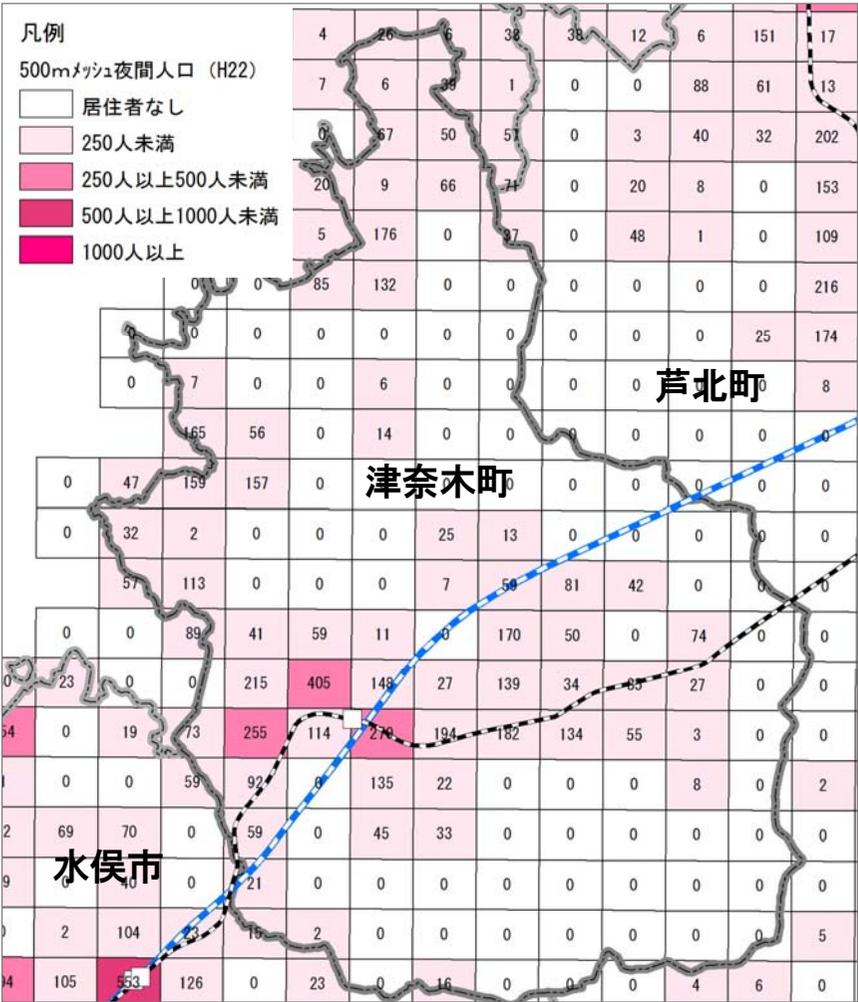


※H26.3時点（津奈木町住民基本台帳）

2-2. 人口等の分布

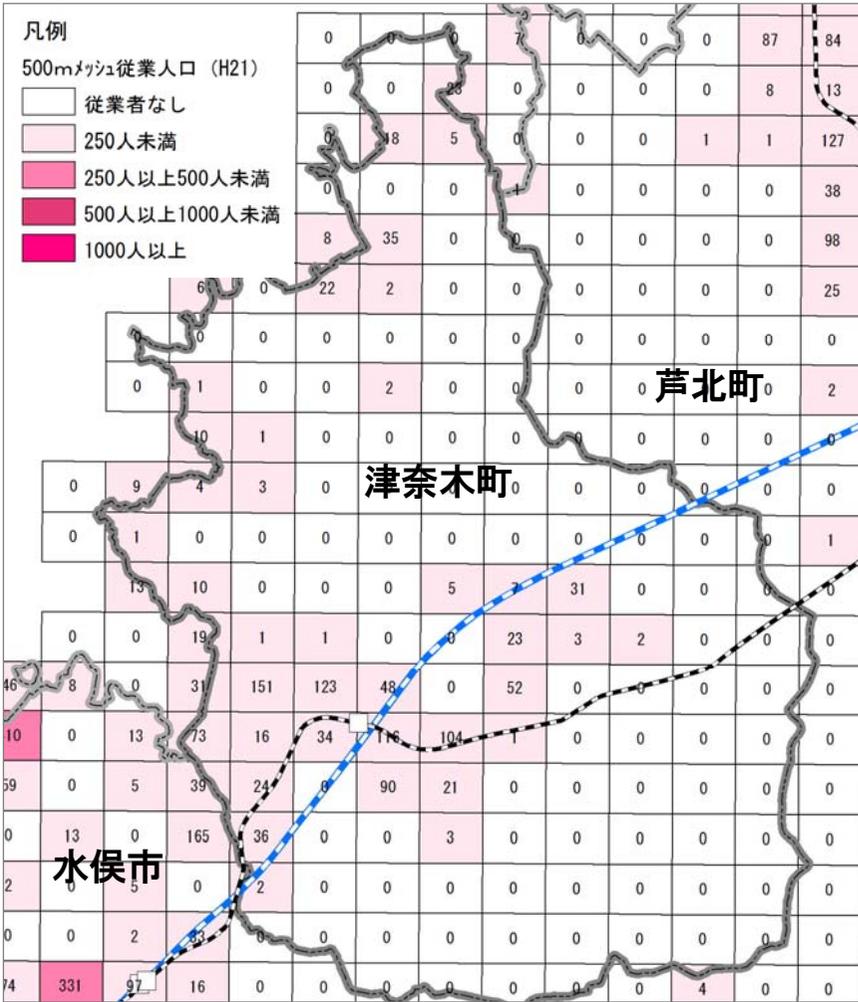
- 人口や従業者は国道3号沿い及び海浜地区に分散し、密度が低い。

図 人口の分布状況(平成22年時点)



※平成22年国勢調査(500mメッシュ)より作成

図 従業者の分布状況(平成21年時点)

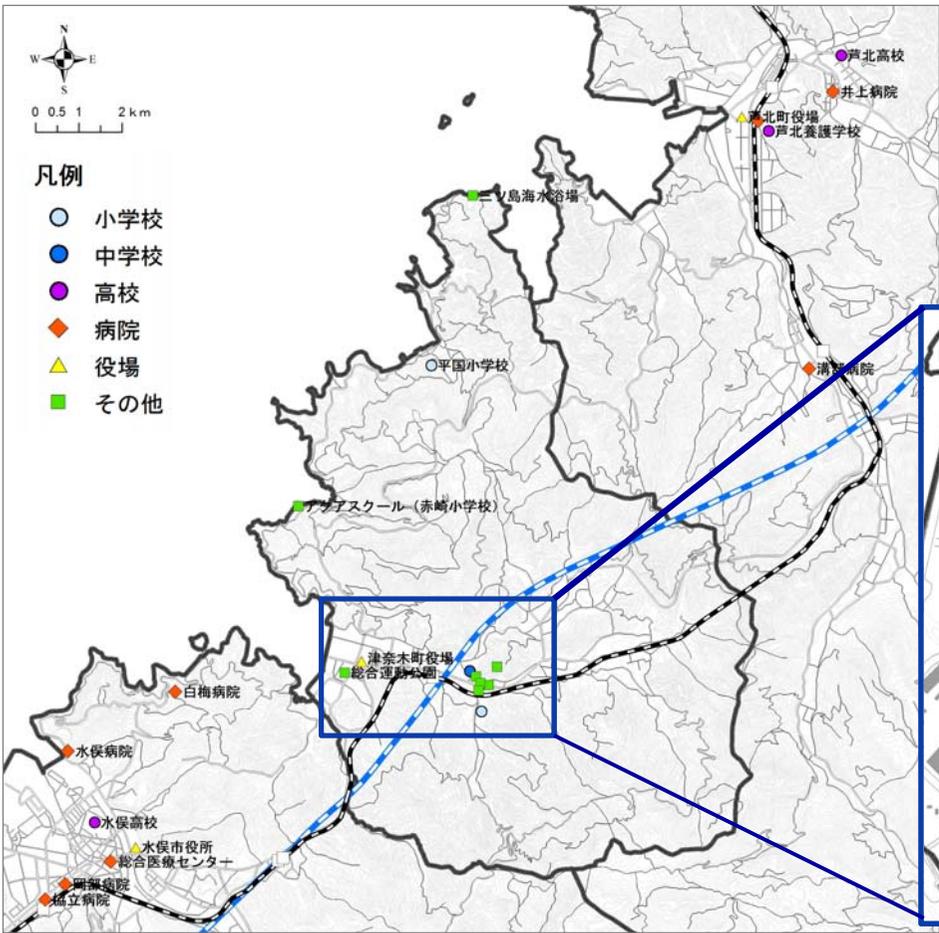


※平成21年経済センサス(500mメッシュ)より作成

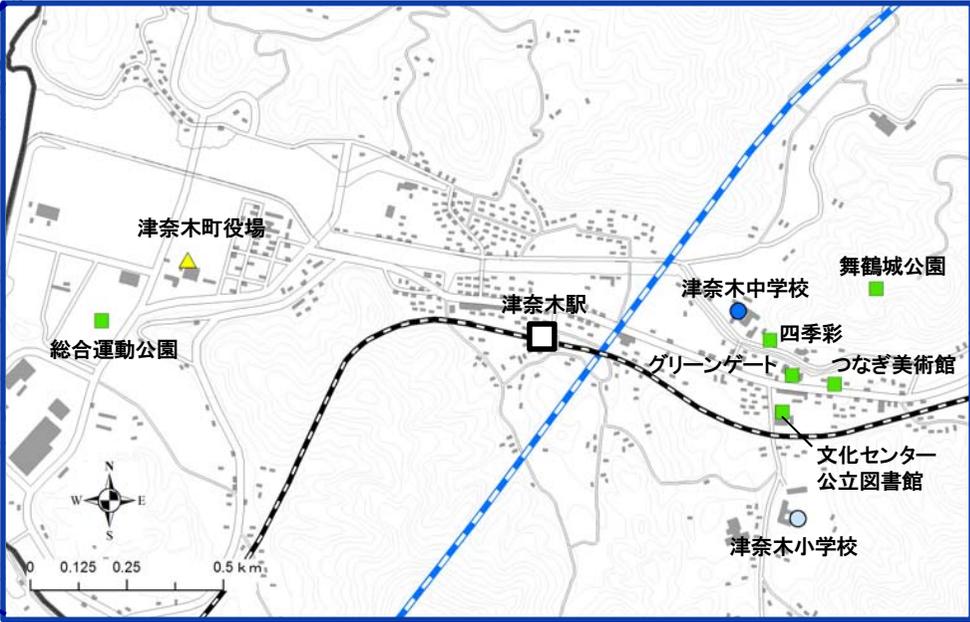
2-2. 人口等の分布

◆主要施設の立地状況

- 高校や総合病院は町内になく、最寄りでは、隣接する水俣市内や芦北町内に立地している。



津奈木駅付近の国道3号沿いに公共・公益施設が立地



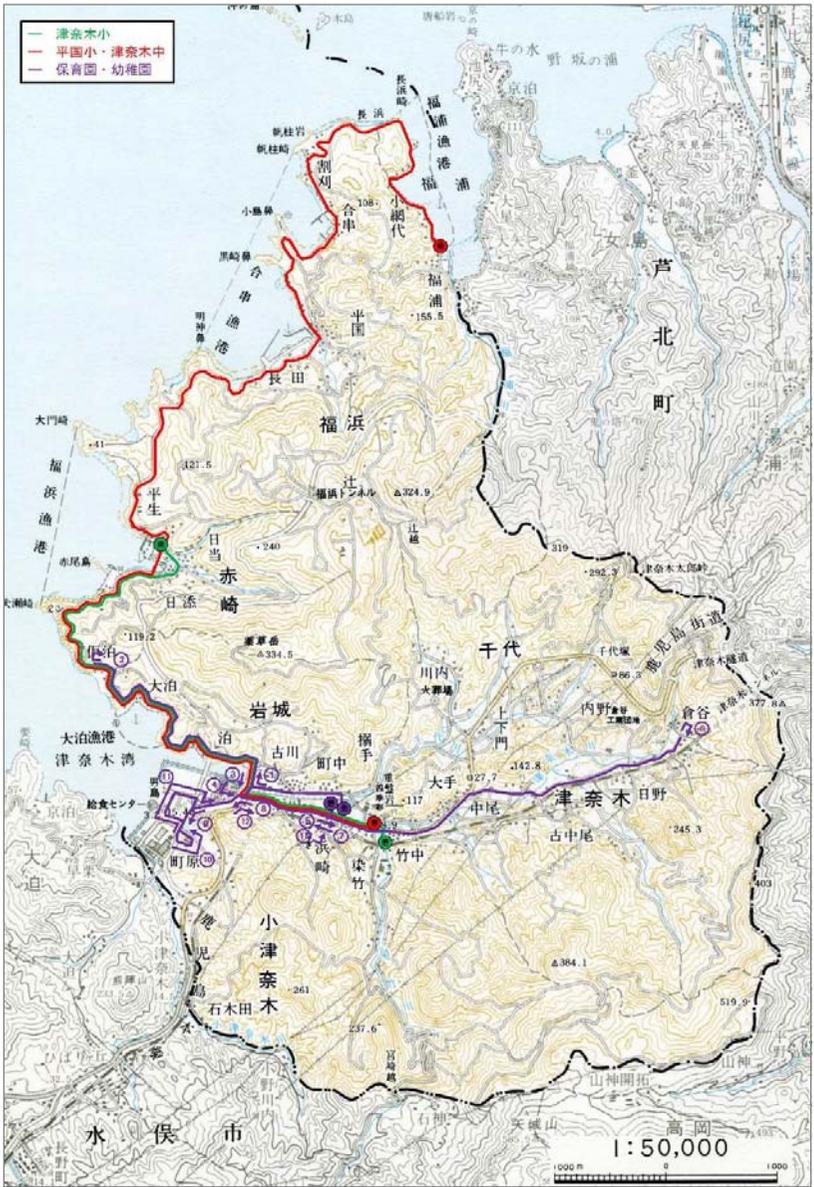
2-3. 学童輸送

◆スクールバスの運行状況

- 車両3台により、園児及び小学生・中学生の遠距離通学時の安全を確保。
- 運行経路は、路線バスとほぼ重複しており、乗車率には若干の余裕はある。
- 平国小学校の統廃合（津奈木小学校に統合）が検討されており、今後、対象児童数の増加（H26.6時点で想定される増加数：13人）が見込まれる。

表 スクールバスの運行等状況(平成25年度)

	車両サイズ (人乗り)	台数 (台)	対象児童数 (日平均)	乗車率 (%)	経常費用 (千円)
1号車	29	1	13人	45%	819
2号車	46	1	35人	76%	1,780
3号車	29	1	27人	93%	2,031
計	104	3	75人	72%	4,630



3-1. ニーズ調査の実施概要

- 町民の移動実態等を把握するため、地域住民・バス利用者・施設利用者に対して、それぞれアンケート調査を実施。

表 ニーズ調査の実施概要

	地域住民アンケート調査	バス利用者アンケート調査	施設利用者アンケート調査
調査目的	町民の平日・休日別の主な外出行動、公共交通に対するニーズの把握	路線バスの利用状況、バスに対する改善要望の把握	地域活性化に向けた町内拠点アクセスに対する要望の把握
調査対象	町民（無作為抽出）	町内バス停乗降者	町内主要施設来訪者
調査方法	郵送配布・郵送回収	直接配布・郵送回収	回収箱設置
配布数	600世帯	全数配布	5施設
回収数	354世帯（678票）	26票	40票
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世帯情報 ・ 個人属性 ・ 平日、休日の外出行動 ・ 路線バスの利用状況 ・ バスに対するニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人属性 ・ 利用目的、目的地、区間 ・ 普段の利用頻度 ・ バスに対するニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人属性 ・ 来訪手段、時間帯、頻度 ・ バスに対するニーズ

3-2. 地域住民アンケート調査の結果

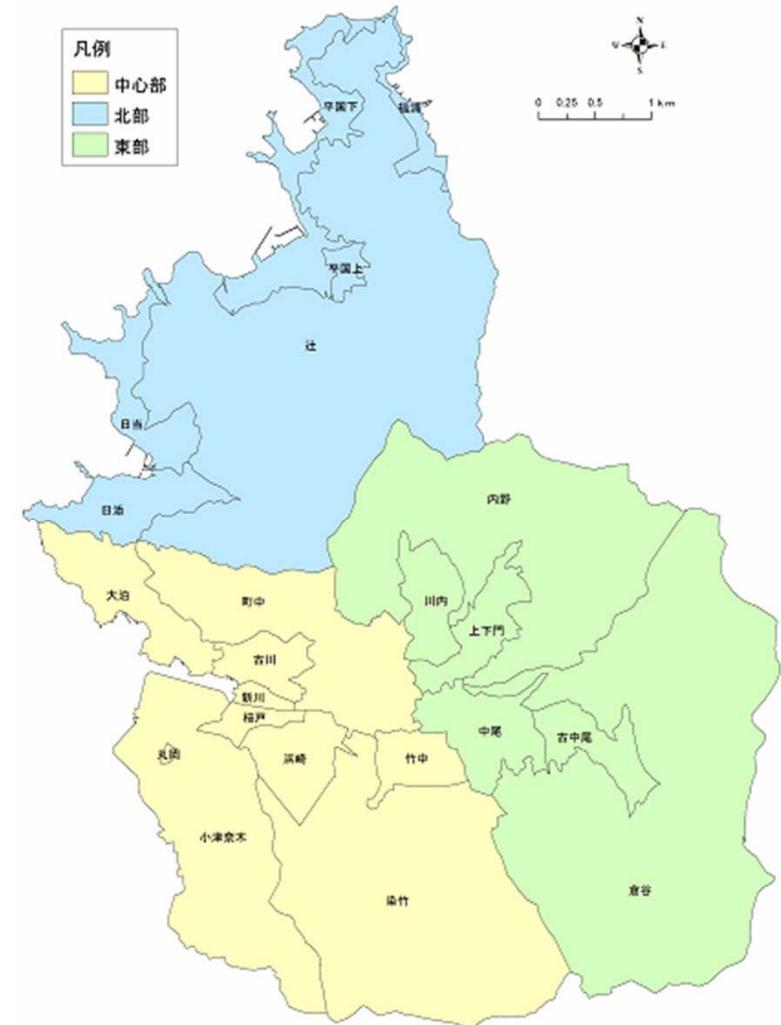
◆回収状況と集計区分

- 町内を下図の3地域に区分して集計。

表 配布数と回収結果

	区域名	世帯数 (A)	人口 (B)	高齢率	配布 世帯数 (C)	回収数		回収率 (D/C)	サンプル率	
						世帯 (D)	個票 (E)		世帯 (D/A)	人口 (E/B)
中心部	浜崎	121	300	35%	26	14	30	53.8%	11.6%	10.0%
	新川	69	159	38%	14	10	19	71.4%	14.5%	11.9%
	桜戸	146	393	29%	32	16	31	50.0%	11.0%	7.9%
	古川	91	221	39%	19	13	27	68.4%	14.3%	12.2%
	町中	60	177	32%	12	7	14	58.3%	11.7%	7.9%
	小津奈木	96	234	39%	20	16	23	80.0%	16.7%	9.8%
	丸岡	112	316	9%	21	5	9	23.8%	4.5%	2.8%
	竹中	102	245	29%	21	9	18	42.9%	8.8%	7.3%
	染竹	170	318	47%	38	27	42	71.1%	15.9%	13.2%
	大泊	126	310	41%	27	18	40	66.7%	14.3%	12.9%
小計	1,093	2,673	33%	230	135	253	58.7%	12.4%	9.5%	
北部	福浦	73	197	37%	30	17	27	56.7%	23.3%	13.7%
	平国上	66	171	42%	26	12	21	46.2%	18.2%	12.3%
	平国下	133	346	32%	52	23	44	44.2%	17.3%	12.7%
	辻	7	17	47%	3	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
	日当	112	270	50%	45	30	54	66.7%	26.8%	20.0%
	日添	136	311	43%	54	27	56	50.0%	19.9%	18.0%
	小計	527	1,312	41%	210	109	202	51.9%	20.7%	15.4%
東部	中尾	90	224	38%	37	28	48	75.7%	31.1%	21.4%
	古中尾	72	189	38%	28	19	35	67.9%	26.4%	18.5%
	倉谷	69	183	42%	28	17	34	60.7%	24.6%	18.6%
	内野	53	141	38%	21	14	32	66.7%	26.4%	22.7%
	上下門	77	236	33%	31	21	48	67.7%	27.3%	20.3%
	川内	39	96	33%	15	7	16	46.7%	17.9%	16.7%
	小計	400	1,069	37%	160	106	213	66.3%	26.5%	19.9%
無回答	-	-	-	-	4	10	-	-	-	
合計	2,020	5,054	36%	600	354	678	59.0%	17.5%	13.4%	

図 集計区分

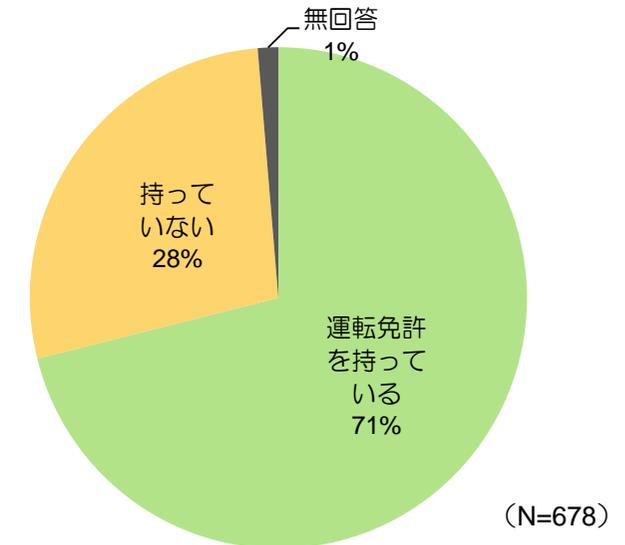


3-2. 地域住民アンケート調査の結果

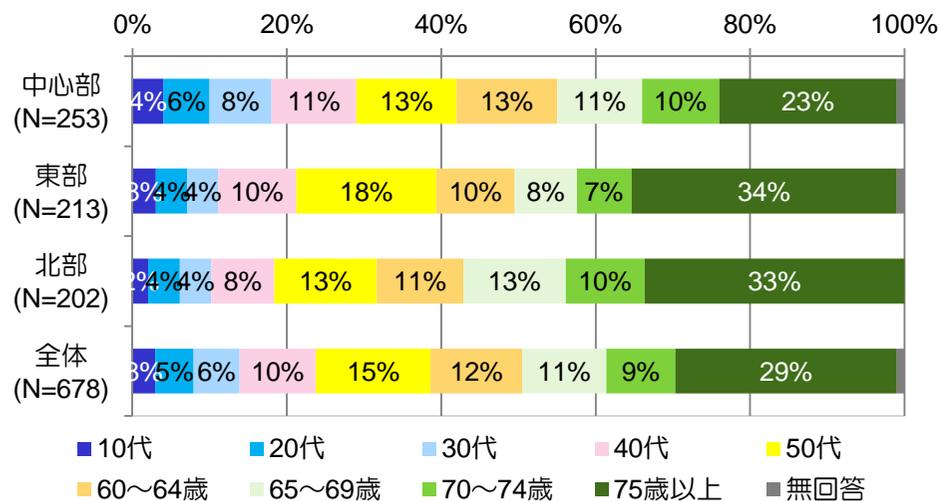
◆回答者の属性

- 年齢や運転免許の有無は、地域によって大きな偏りはなく、65歳以上高齢者が約半数、運転免許を持っている方が71%を占める。
- 地域別では、北部は高齢者が、東部はバス停から距離がある居住者が、他地域と比べて多い。

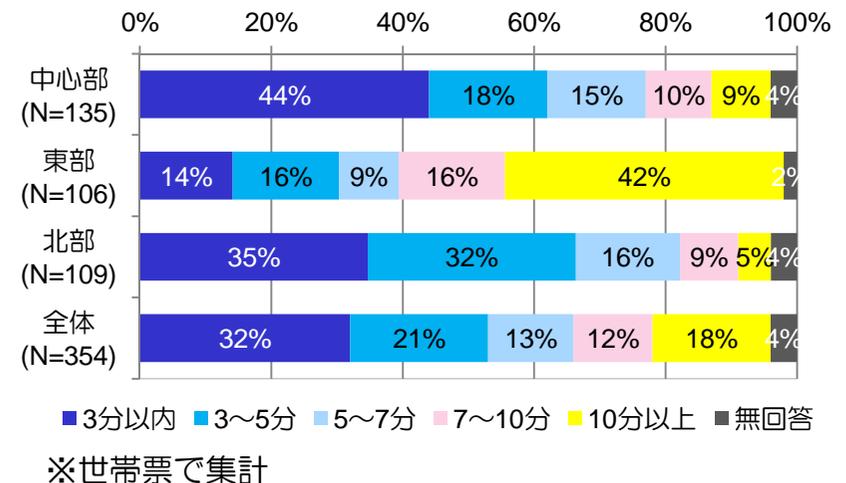
〈回答者の運転免許有無〉



〈回答者の年齢区分〉



〈最寄バス停までの所要時間(徒歩の場合)〉

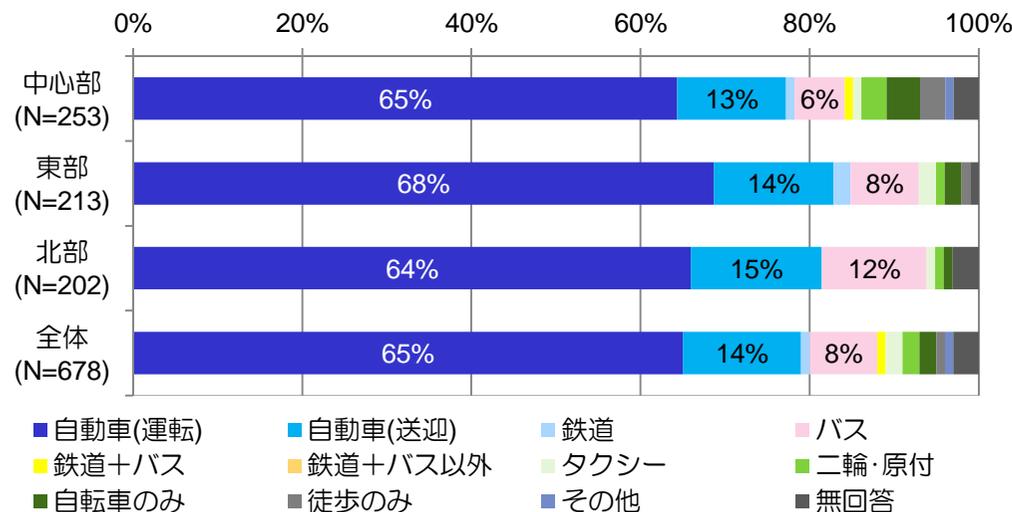


3-2. 地域住民アンケート調査の結果

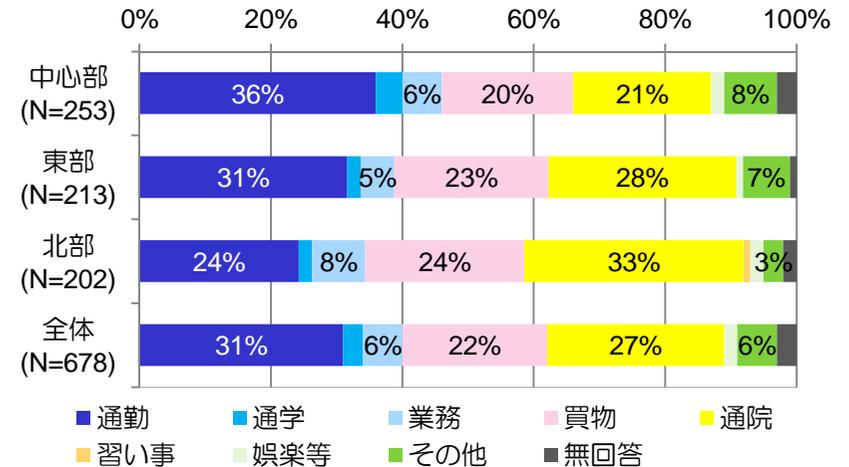
◆平日の外出状況

- 「通勤」「通院」「買物」での外出が多く、外出先は「水俣市内」が約半数を占める。
- 利用交通手段の多くは「自動車（運転・送迎）」であり、路線バスの利用は1割程度となっている。

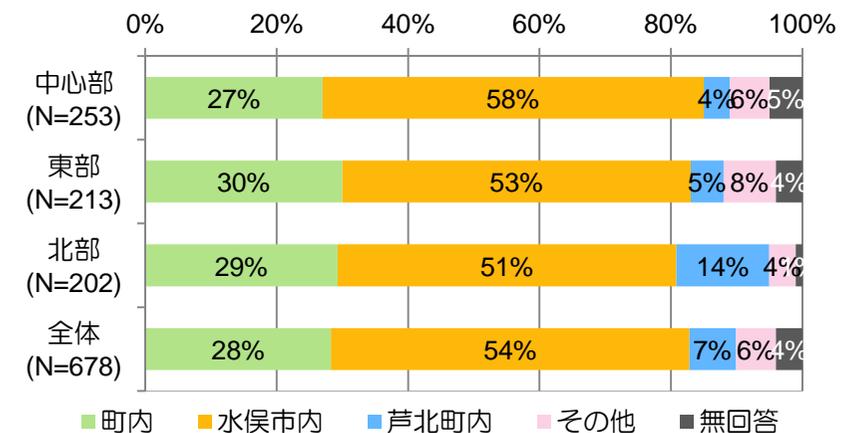
〈利用交通手段〉



〈主な外出目的〉



〈主な外出先〉



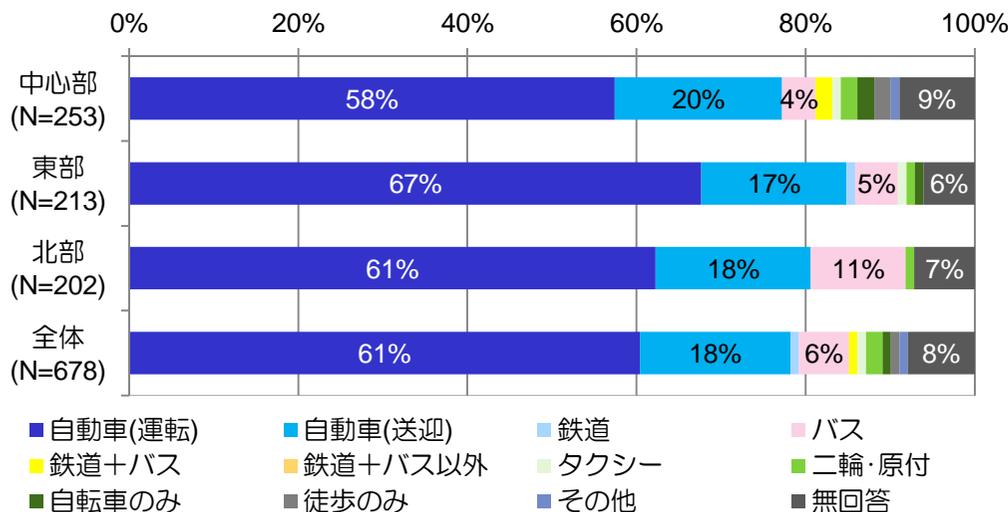
※施設名：総合医療センター（11.9%）、水光社水俣店・岡部病院（4.3%）、水光社津奈木店（4.0%）、ロッキ-水俣店（2.9%）、尾田病院（2.2%）など

3-2. 地域住民アンケート調査の結果

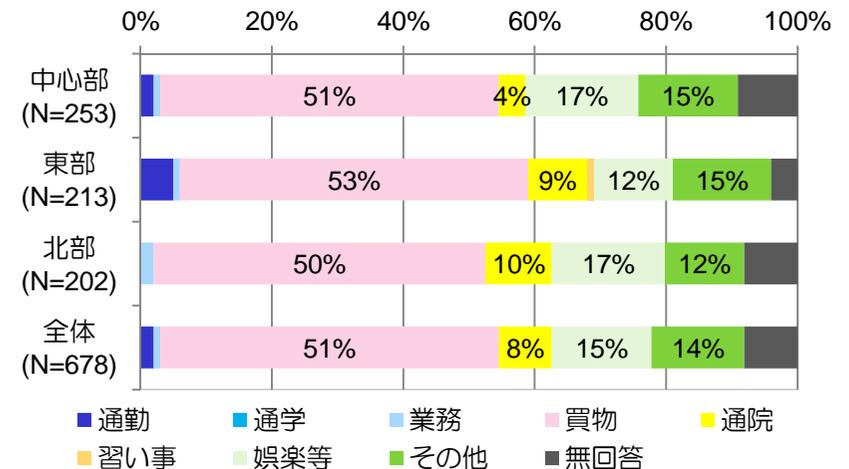
◆ 休日の外出状況

- 「買物」が半数を占め、外出先は「水俣市内」が約4割、「その他」が約3割と遠距離の外出が増加。
- 利用交通手段の多くは「自動車（運転・送迎）」であり、路線バスの利用は1割程度となっている。

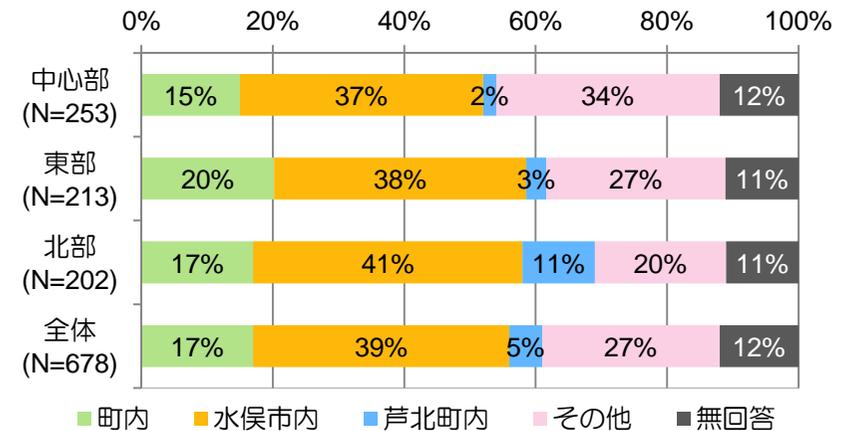
〈利用交通手段〉



〈主な外出目的〉



〈主な外出先〉



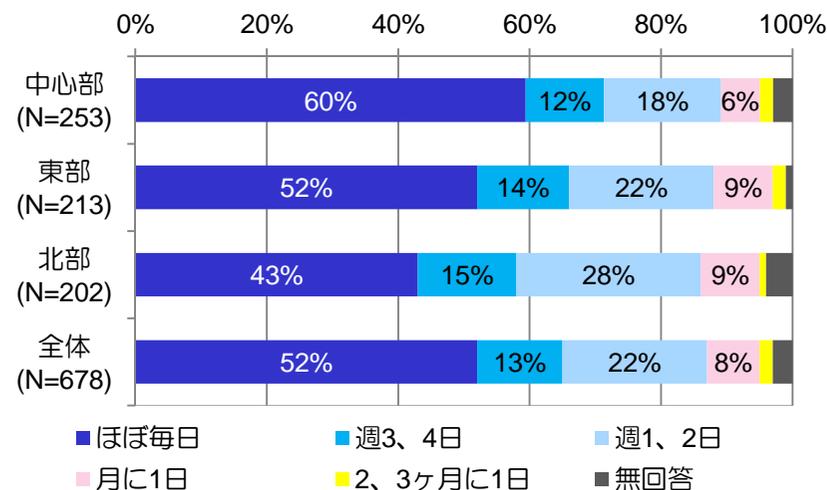
※施設名：水光社水俣店（11.5%）、水光社津奈木店（5.0%）、
 〆ッキ水俣店（3.5%）、〆ッキ津奈木店（2.9%）、ゆめタウン八代
 （2.5%）、マキマート（2.1%）、I&M シティ（1.9%）など

3-2. 地域住民アンケート調査の結果

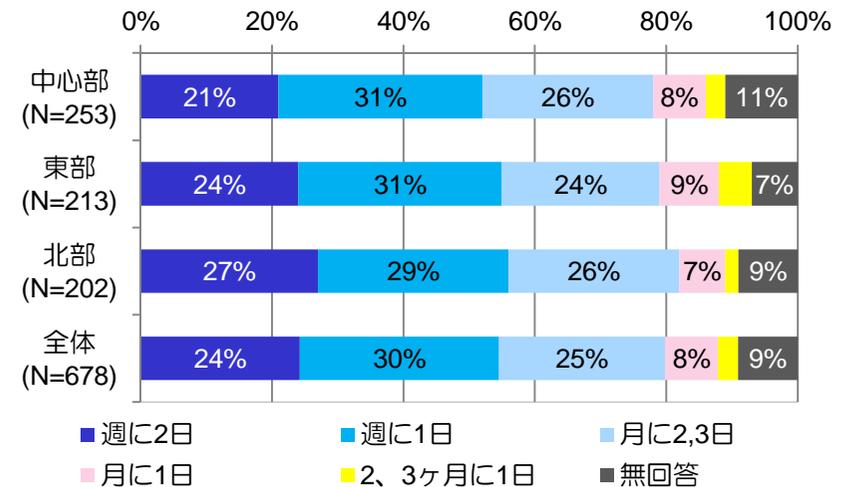
◆外出の頻度

- 平日は「ほぼ毎日」が半数程度、次いで「週1,2日」が2割程度。
- 休日は「週に2日」が2割程度、「週1日」が約3割程度。
- 東部・北部地域では、中心部と比べて、平日の外出頻度がやや低い。
- 平日は、ほぼ毎日外出している方が半数を占めるが、休日は土日両方とも外出する方は2割程度と外出頻度が低くなる。

〈平日の外出頻度〉



〈休日の外出頻度〉

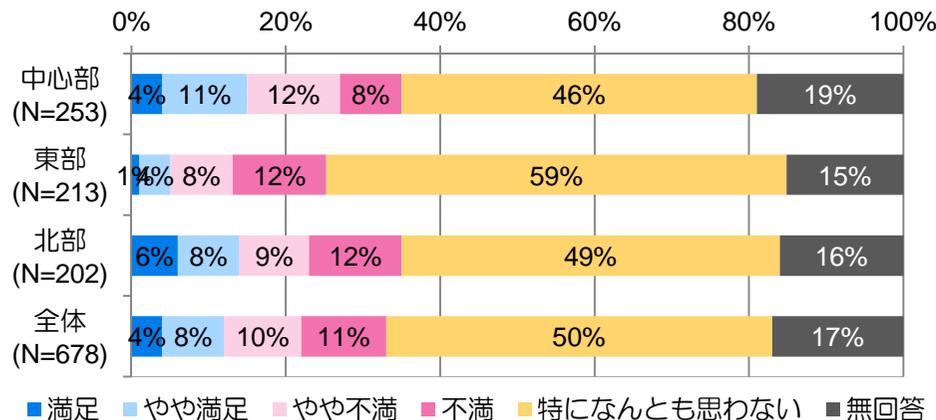


3-2. 地域住民アンケート調査の結果

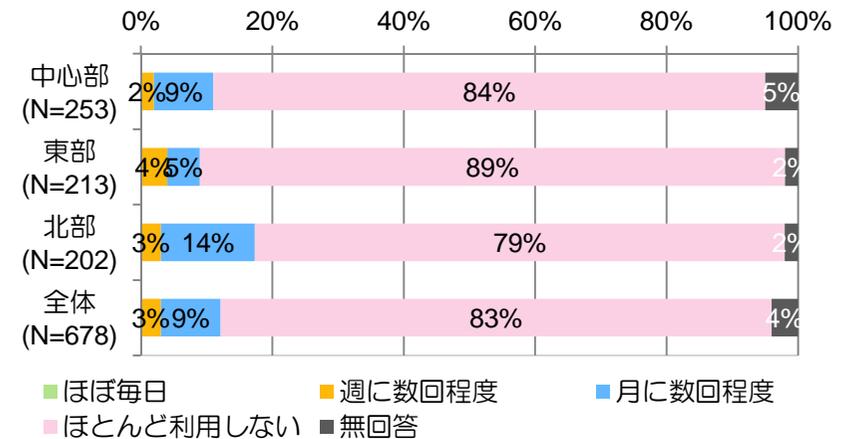
◆路線バスの利用について

- 路線バスを「ほとんど利用しない」が約8割、利用している層でも「月に数回程度」が約1割。
- 利用しない理由の大半が「自動車などの他の交通手段があるから」
- 路線バスに対しては、「特になんとも思わない」が半数で、移動手段としての認識が低い

〈路線バスに対する満足度〉

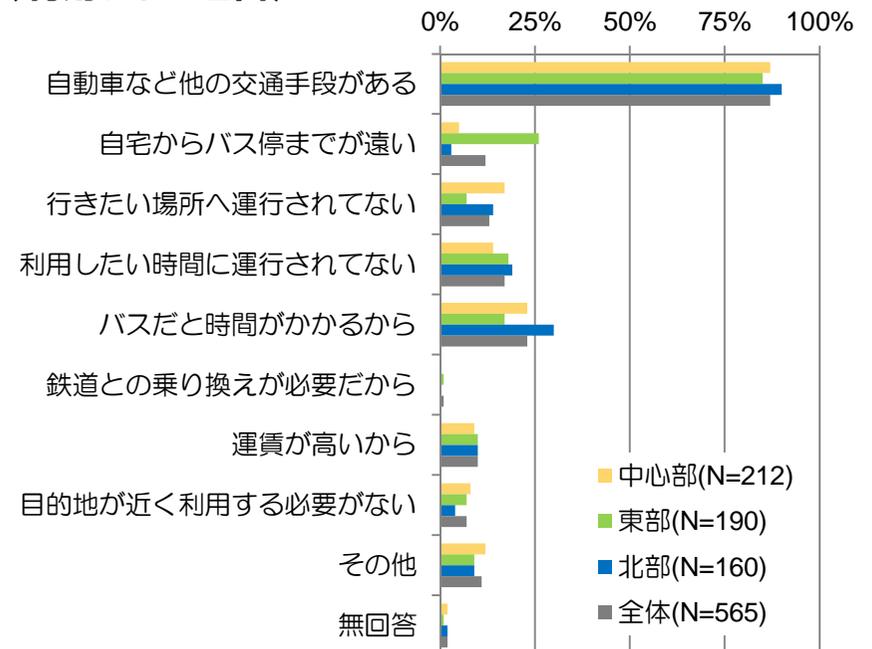


〈路線バスの利用頻度〉



〈利用しない理由〉

※「ほとんど利用しない」のみ回答

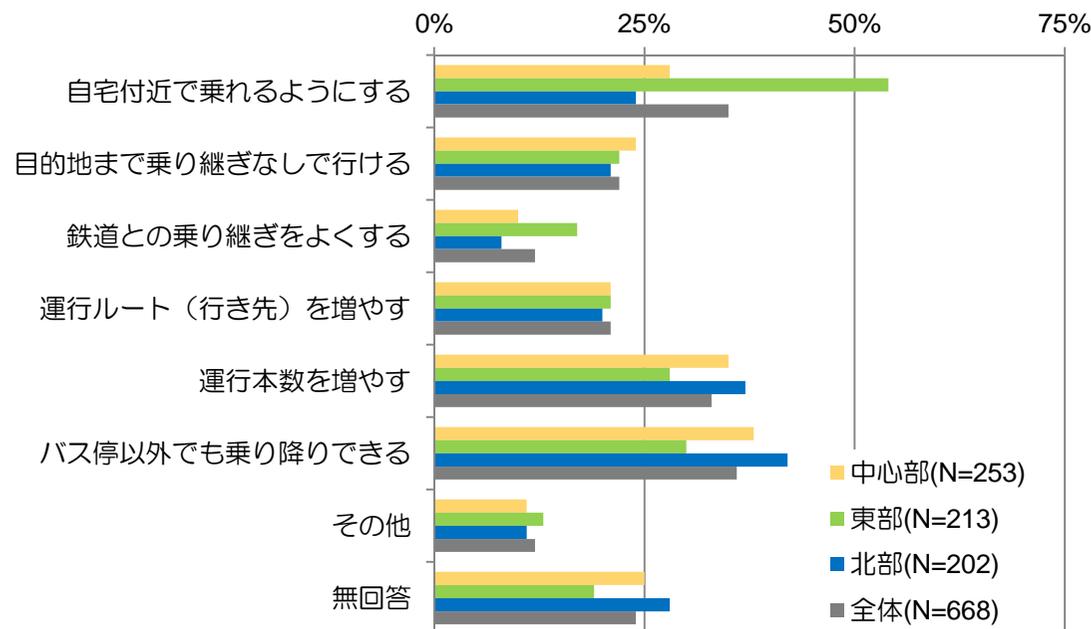


3-2. 地域住民アンケート調査の結果

◆バスへの改善ニーズについて

- 改善要望として、「自宅付近で乗れるようにする」「バス停以外でも乗降できるようにする」など、乗降場所に関するニーズが多い。
- バスを利用して行きたい場所は、水俣市内の買物施設・病院が多い一方、四季彩や郵便局などの町内施設への移動ニーズも多くある

〈バス交通に対する改善要望〉



〈バスを利用して行きたい場所〉

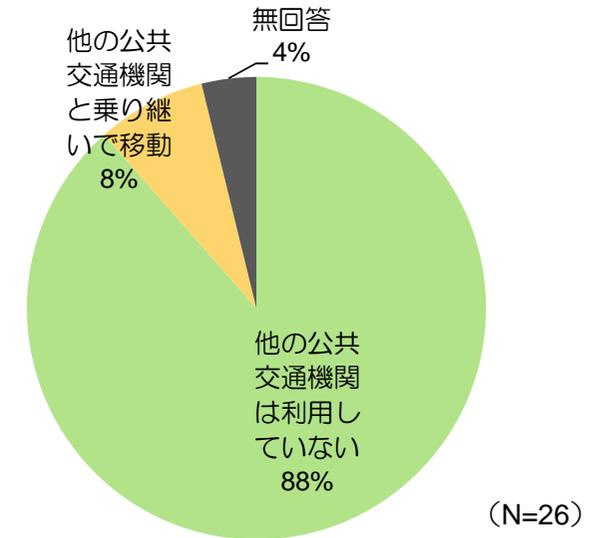
回答項目	回答数	構成比
水光社水俣店	98	14.5%
つなぎ温泉四季彩	89	13.1%
総合医療センター	58	8.6%
病院	43	6.3%
水光社津奈木店	32	4.7%
エムズシティ	26	3.8%
津奈木郵便局	16	2.4%
新水俣駅	14	2.1%
JA津奈木	14	2.1%
津奈木町役場	11	1.6%
マキオマート	11	1.6%
岡部病院	11	1.6%
出水市	11	1.6%
湯の児温泉	10	1.5%
ロッキー水俣店	10	1.5%
ロッキー芦北店	10	1.5%

3-3. バス利用者アンケート調査の結果

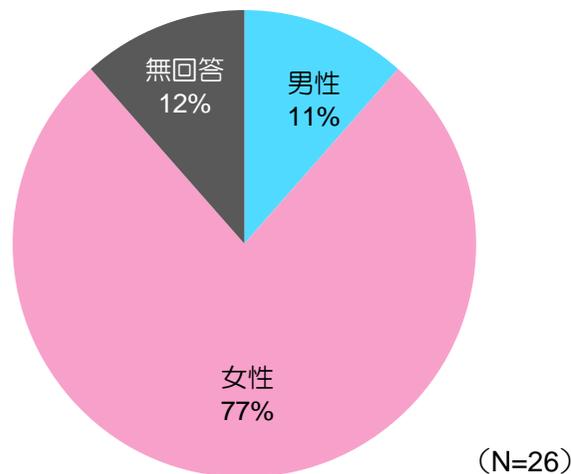
◆利用者属性

- 利用者は、運転免許を持っていない、70歳以上の女性が多い。
- 目的地までの移動において、他の公共交通機関と乗り継いで利用しているのは約1割。

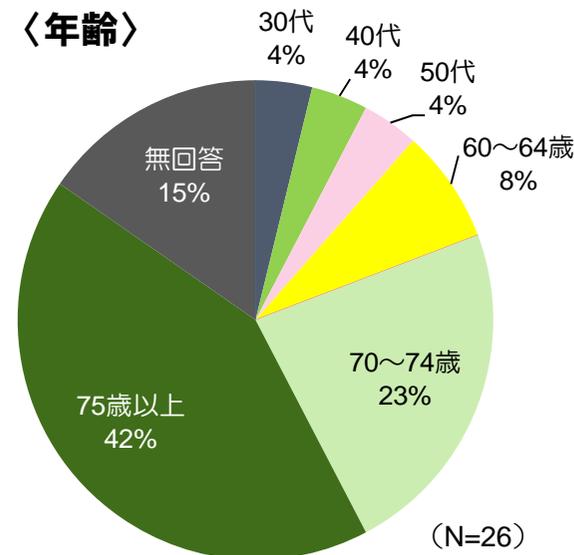
〈他公共交通機関との乗り継ぎ〉



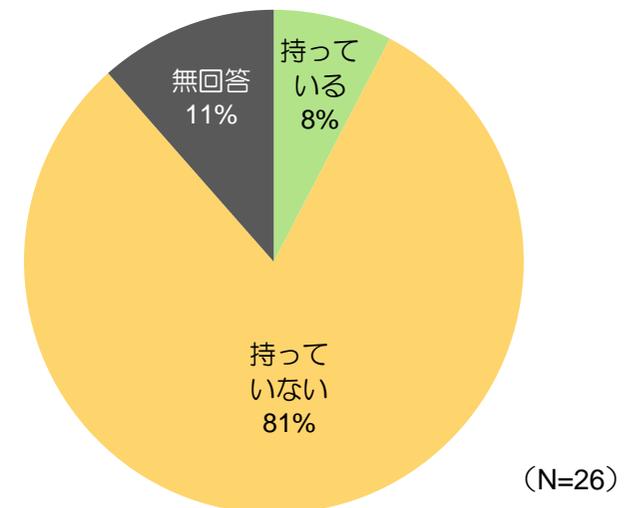
〈性別〉



〈年齢〉



〈運転免許の有無〉



3-3. バス利用者アンケート調査の結果

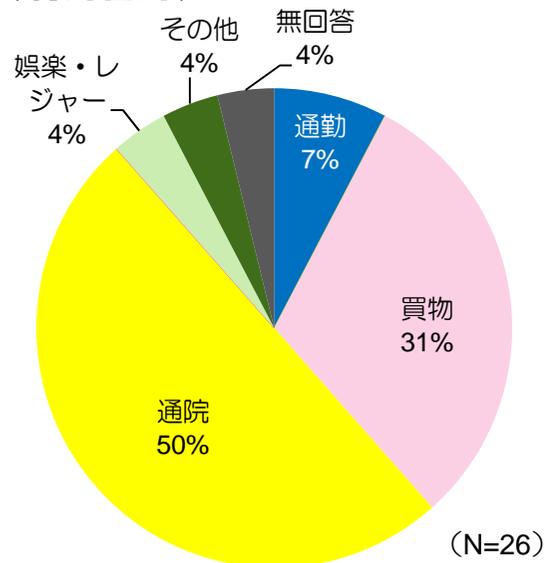
◆利用状況

- 「通院」「買物」目的での利用が多く、利用頻度は「週1,2日」または「月1,2日」が各3割程度を占めている。
- 行き先は「水俣市内」が多く、総合医療センター、協立病院、岡部病院の病院施設のほか、水光社水俣店及び津奈木店が多い。

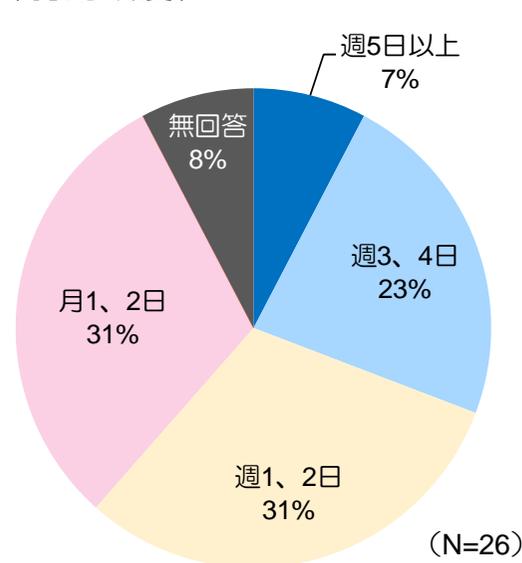
〈主な行き先〉

総合医療センター	27%
水光社水俣店	19%
水俣協立病院	12%
岡部病院	12%
水光社津奈木店	8%
たなかクリニック	8%

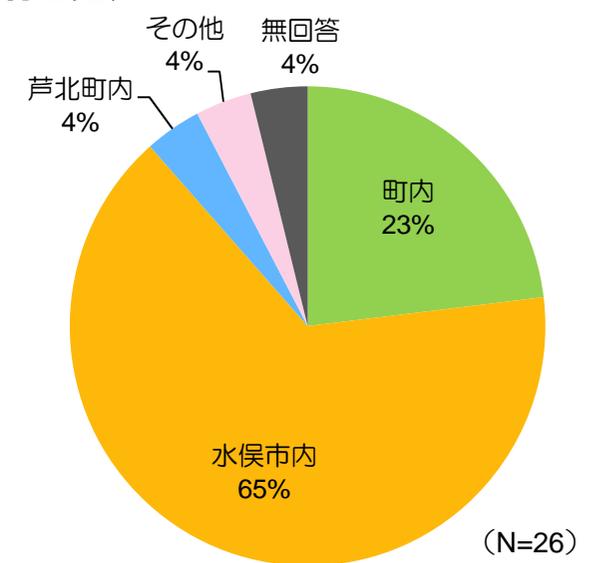
〈利用目的〉



〈利用頻度〉



〈行き先〉

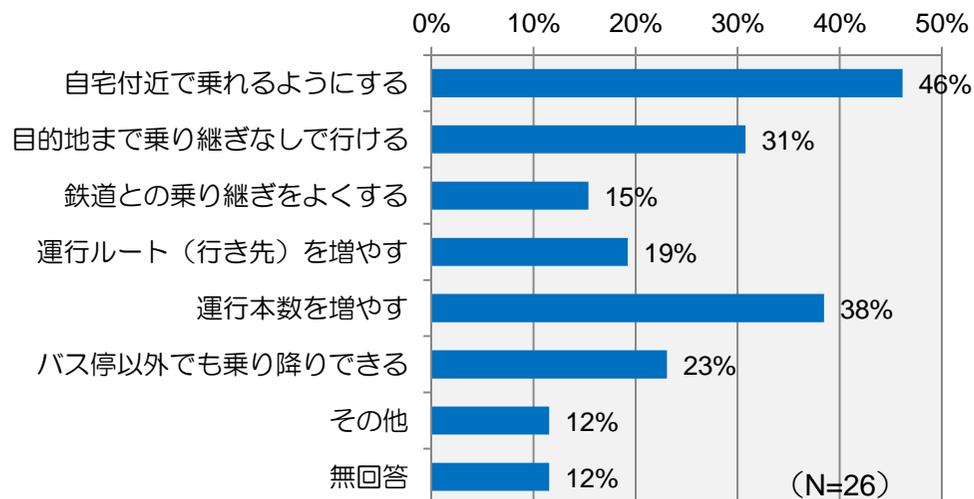


3-3. バス利用者アンケート調査の結果

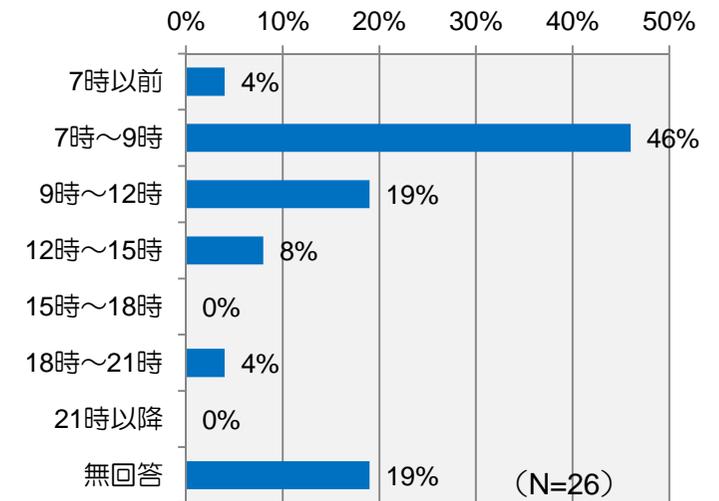
◆改善ニーズについて

- 改善要望として、乗降場所に関するニーズのほか、「運行本数を増やす」、「乗り継ぎなしで行けるようにする」が多く挙げられている。
- 利用したい時間帯は「7～9時」に集中
- 1回の乗車で支払ってもよい料金は、現状と同程度の料金とする回答が多い。

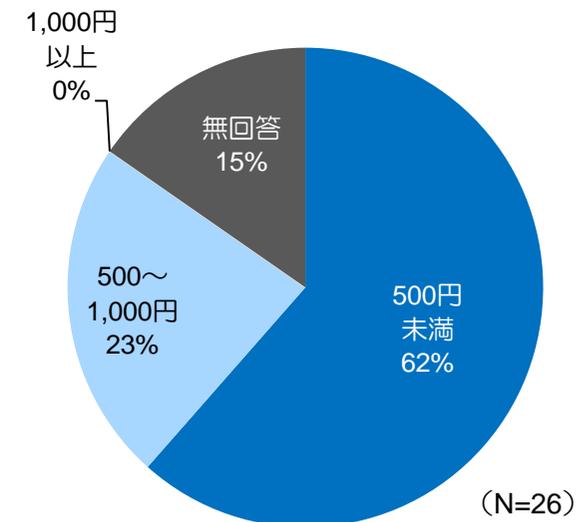
〈バス交通に対する改善要望〉



〈利用したい時間帯〉



〈1回の乗車で支払ってもよい料金〉

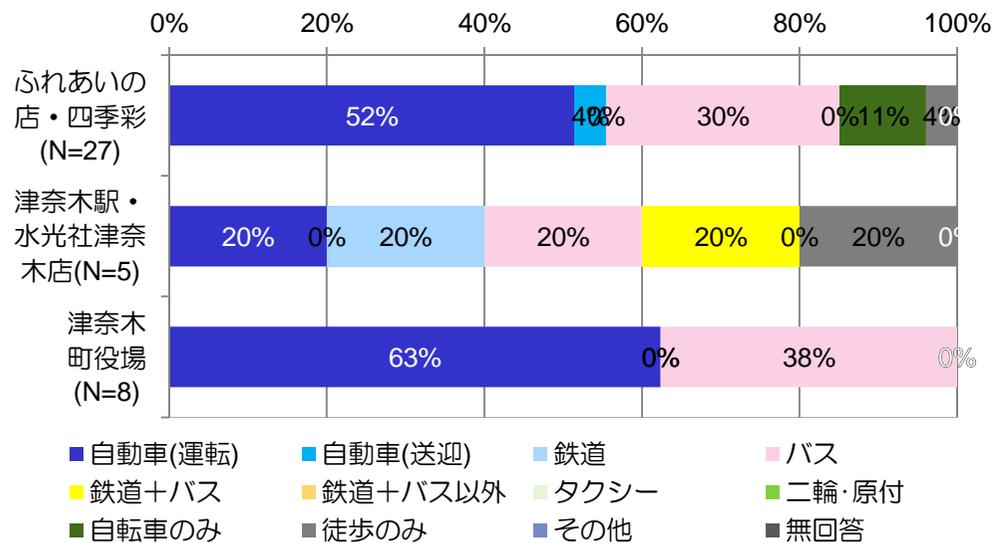


3-4. 施設利用者アンケート調査の結果

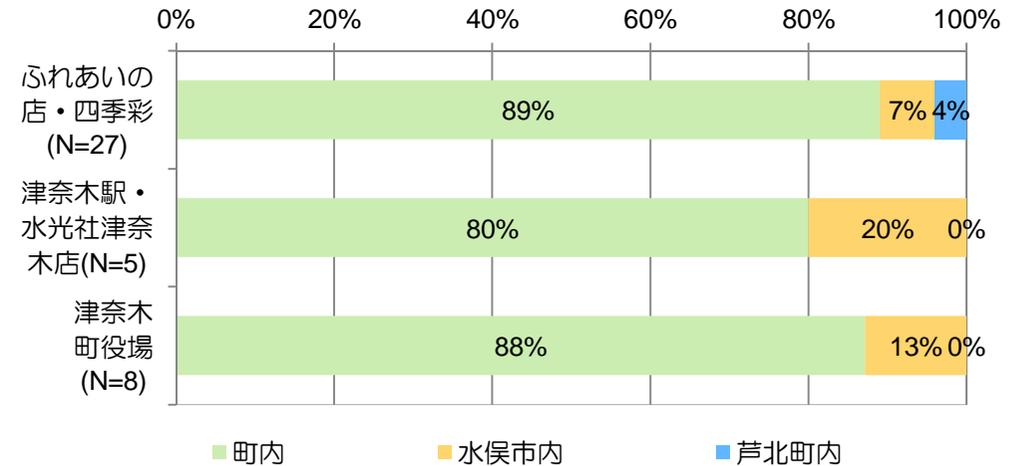
◆利用状況

- 町民の利用が多いが、水俣市民も一部利用。
- 来訪時間は午前中がほとんど。
- ふれあいの店・四季彩、役場は自動車での来訪が半数を占めるが、バス利用も多い。

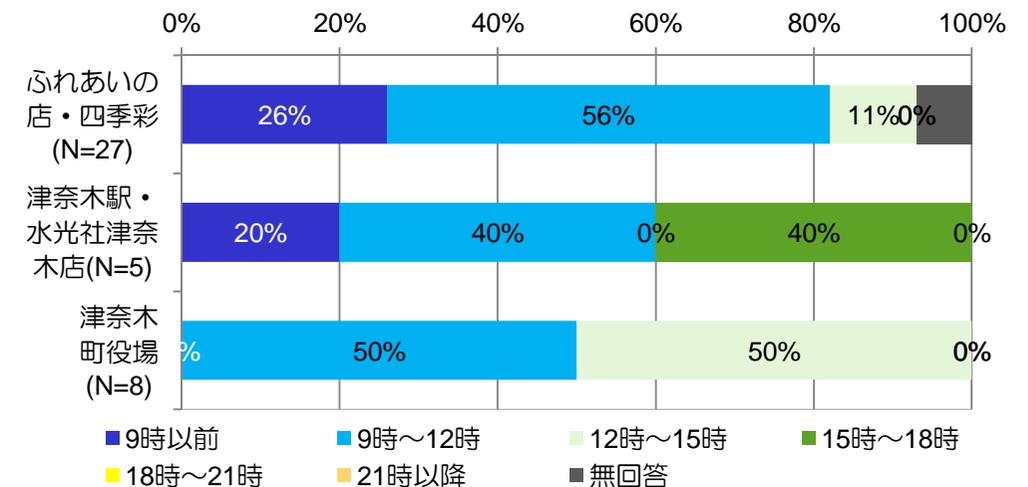
〈来訪時利用交通手段〉



〈来訪者の住所〉



〈来訪時間帯〉



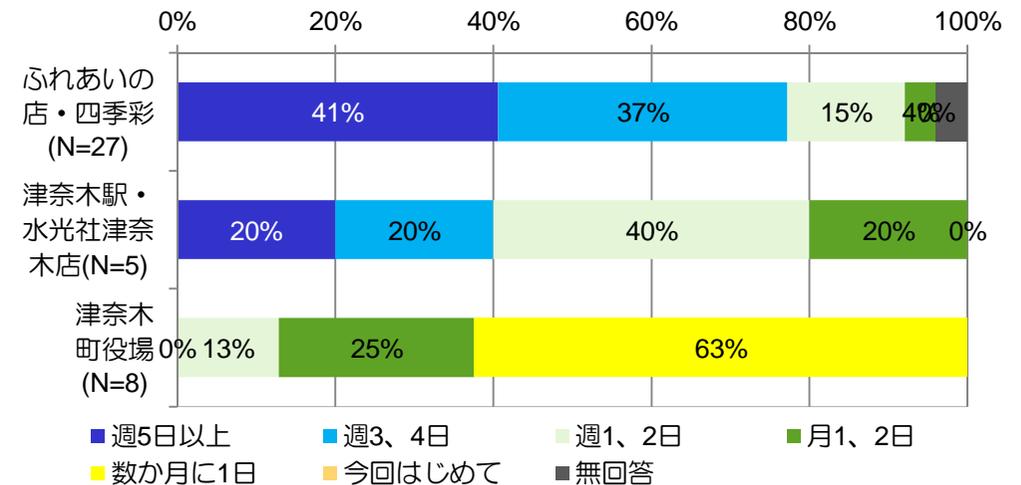
3-4. 施設利用者アンケート調査の結果

- 「ふれあいの店」及び「四季彩」では、週5日以上が41%と、来訪頻度が高い。
- 津奈木町役場への来訪頻度は、「数か月に1日」が最も多い。

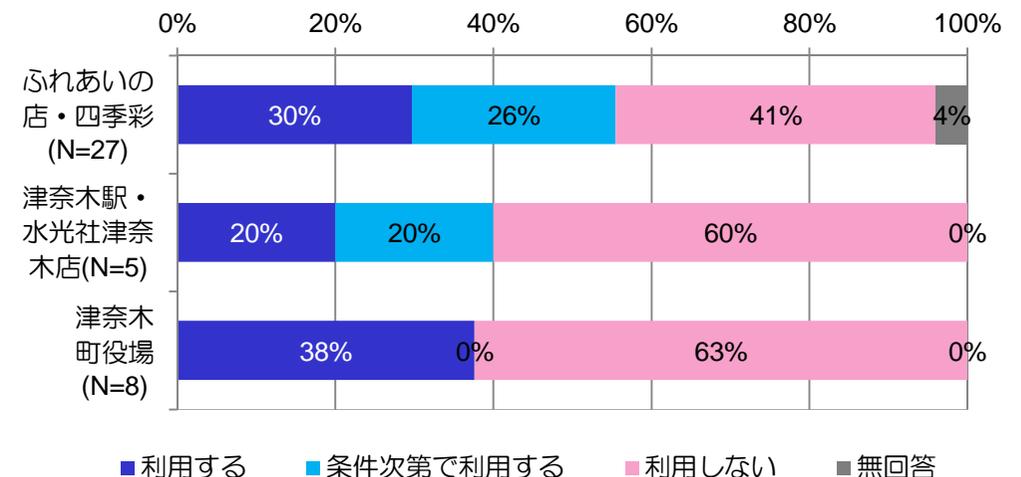
◆バスの利用意向

- 自宅から当該施設まで直接行けるバスができた場合の利用意向は、ふれあいの店及び四季彩が最も高く、「利用する」「条件次第で利用する」をいれると56%を占める。

〈来訪頻度〉



〈自宅から直接施設まで行くバスがあった場合の利用意向〉



3-5. ニーズ調査結果のまとめ

◆外出行動

- 平日は通勤、通院、買物が同程度、休日は買物での外出が半数を占め、行き先は水俣市内が多い。
- 東部・北部地域では、中心部と比べて、平日の外出頻度がやや低い。
- 平日は、ほぼ毎日外出している方が半数を占めるが、休日は土日両方とも外出する方は2割程度と外出頻度が低くなる。

◆バスの利用状況

- 北部地域では、他地域よりも高齢化が進んでおり、平日・休日ともに外出時の交通手段として路線バスを利用している割合が高い。
- バス利用者のうち、毎日利用している層は1割に満たない。

◆バスへの改善要望

- 東部地域では、バス停から10分以上離れた地域に居住されている方が多く、自宅付近での乗車に対するニーズが高い。
- バス利用者からは、上記のほか、目的地まで乗り継ぎなしでいけるようにとのニーズが多く挙がっている。

4-1. 地域公共交通の現況（まとめ）

◆路線バスの利用状況

- 利用が最も多い区間でも1便平均通過人員は3人程度と少ない。
- 赤崎～福浦間（平国線）は1便平均通過人員が1人未満。
- 買物・通院目的の利用が多く、利用頻度は週1回程度が多い。

◆沿線の状況

- 路線バス沿線に人口が概ね集積しているが、人口密度は低い。
- 人口の約4割が65歳以上で、55～64歳人口も多く、今後、一気に高齢化が進むことが想定される。
- 通院や買物で外出する層が多く、外出先は水俣市内の施設が多い。
- 園児、小学生、中学生の遠距離通学手段としてスクールバスが運行しているが、小学校の統合も予定されており、利用率はほぼ満席。

◆バス交通に対するニーズ

- 自宅や目的地の近くで乗り降りできるようにしたい、とのニーズが全体的に高い。

4-2. 地域公共交通の課題

① 小規模な需要への対応

- 沿線の人口が希薄で、今後も人口減少及び高齢化が進む情勢のなか、いまの運行形態（定時定路線）では採算的に合わず、抜本的な見直しが必要

② 公共交通空白地域における生活交通手段の確保

- 公共交通空白地域が点在するなか、既存路線バスは町内をきめ細かにサービスするには不向きな路線形態であり、地域公共交通全体としての総合的な見直しが必要

③ 町民のマイバス意識の醸成

- 町民のバスに対する関心は低く、公共交通をより利用してもらうための意識醸成が必要